【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【公開番号】特開2008-238088(P2008-238088A)
【公開日】平成20年10月9日(2008.10.9)
【年通号数】公開・登録公報2008-040
【出願番号】特願2007-83985(P2007-83985)
【国際特許分類】
Ｂ０１Ｄ　39/16　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０１Ｄ　39/16　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年4月7日(2009.4.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
繊維径約５μｍのポリエステル繊維（帝人ファイバー社製　０．３デシテックス×５ｍｍ）と、繊維径約１２μｍのポリエステル熱融着バインダー繊維（ユニチカ社製　エステル４０８０　１．７デシテックス×５ｍｍ）を質量比で６０：４０の繊維配合になるように混合し、水性スラリーを作成して、これらのスラリーから抄紙機を用いて、目付質量６８ｇ／ｍ^{2}になるシートを形成し、この湿紙の状態のシートに合成樹脂バインダーとして、アクリル系ラテックス（大日本インキ化学工業社製　ボンコートＳＦＡ－３３）を１５質量％になるように基材に付与し，１３０℃で乾燥させ、圧力損失が２５Ｐａ、０．３μｍＤＯＰ透過率が９７．７％、ＰＦ値が０．４０、撥水性が７００ｍｍの液体濾過用フィルター濾材を得た。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】
繊維径約０．７μｍのガラス繊維（ジョンズ　マンビル社製　＃１０６）と、繊維径約１２μｍのポリエステル熱融着バインダー繊維（ユニチカ社製　エステル４０８０　１．７デシテックス×５ｍｍ）を質量比で４０：６０の繊維配合になるように混合し、水性スラリーを作成し、合成樹脂バインダーを１０質量％及びアセチレン系界面活性剤（日信化学工業社製　オルフィンＳＴＧ）を０．３質量％付与した以外は、実施例１と同様にして、圧力損失が２４５Ｐａ、０．３μｍＤＯＰ透過率が５８．１％、ＰＦ値が１０．１、撥水性が２３０ｍｍの液体濾過用フィルター濾材を得た。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５０】
［比較例１］

繊維径約５μｍのポリエステル繊維（帝人ファイバー社製　０．３デシテックス×５ｍｍ）と、繊維径約１２μｍのポリエステル熱融着バインダー繊維（ユニチカ社製　エステル４０８０　１．７デシテックス×５ｍｍ）を質量比で６０：４０の繊維配合になるように混合し、水性スラリーを作成して、これらのスラリーから抄紙機を用いて、目付質量６８ｇ／ｍ^{2}になるシートを形成し、この湿紙の状態のシートに合成樹脂バインダーとして、オレフィン系ラテックス（三井化学社製　ザイクセンＡ）を１５質量％になるように基材に付与し，１３０℃で乾燥させ、圧力損失が２５Ｐａ、０．３μｍＤＯＰ透過率が９７．８％、ＰＦ値が０．３８、撥水性が９００ｍｍの液体濾過用フィルター濾材を得た。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５１】
［比較例２］
繊維径約３μｍのガラス繊維（ジョンズ　マンビル社製　＃１１０）と、繊維径約１２μｍのポリエステル熱融着バインダー繊維（ユニチカ社製　エステル４０８０　１．７デシテックス×５ｍｍ）を質量比で６０：４０の繊維配合になるように混合し、水性スラリーを作成し、合成樹脂バインダーをオレフィン系ラテックス（三井化学社製　ザイクセンＡ）５質量％付与した以外は、比較例１と同様にして、圧力損失が３０Ｐａ、０．３μｍＤＯＰ透過率が６０．４％、ＰＦ値が７．２、撥水性が３３０ｍｍの液体濾過用フィルター濾材を得た。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５２】
［比較例３］
繊維径約０．７μｍのガラス繊維（ジョンズ　マンビル社製　＃１０６）と、繊維径約１２μｍのポリエステル熱融着バインダー繊維（ユニチカ社製　エステル４０８０　１．７デシテックス×５ｍｍ）を質量比で４０：６０の繊維配合になるように混合し、水性スラリーを作成し、合成樹脂バインダーをアクリル系ラテックス（大日本インキ化学工業社製　ボンコートＳＦＡ－３３）を１０質量％付与した以外は、比較例１と同様にして、圧力損失が２５０Ｐａ、０．３μｍＤＯＰ透過率が０．６４％、ＰＦ値が８．６、撥水性が４５０ｍｍの液体濾過用フィルター濾材を得た。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５３】
［比較例４］
繊維径約０．７μｍのガラス繊維（ジョンズ　マンビル社製　＃１０６）と、繊維径約１２μｍのポリエステル熱融着バインダー繊維（ユニチカ社製　エステル４０８０　１．７デシテックス×５ｍｍ）を質量比で６０：４０の繊維配合になるように混合し、水性スラリーを作成し、合成樹脂バインダーをオレフィン系ラテックス（三井化学社製　ザイクセンＡ）２質量％付与した以外は、比較例１と同様にして、圧力損失が３００Ｐａ、０．３μｍＤＯＰ透過率が０．０１４％、ＰＦ値が１２．６、撥水性が２５０ｍｍの液体濾過用フィルター濾材を得た。